



伊勢市教育研究所

たより



<第12号>

http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo  
E-mail:kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

平成31年3月29日  
伊勢市教育研究所  
伊勢市小俣町元町540番地

若手教員の学びを支える研修講座  
【授業づくり】



平成30年度最後の研究所たよりでは、「第2回若手教員の学びを支える研修講座」の内容をお伝えします。

この講座には、伊勢市内各校でご活躍の4人の指導教諭のみなさんを講師としてお迎えしました。小学校・中学校別に分かれ、ご自身の経験を踏まえて、授業づくりのコツや実践例についてお話しいただきました。

先生方それぞれの個性あふれるお話でしたが、子どもたちを中心にすえた教育にける熱い思いと、若手教員へのあたたかいエールを届けていただきました。参加の皆さんの表情からも、それらをしっかりと受け止めた様子がうかがえました。

小学校部会①

志賀 剛 指導教諭のお話より

志賀先生には、生活科を取り上げ、題材や授業展開に求められることについてお話しいただきました。

「風で走る車をつくってあそぼう」の実践では、子どもたち一人一人の活動、思いや願いをていねいに把握しながらすすめる様子を映像も使って紹介していただきました。

また「ストローふえであそぼう」の実践では、参加者もストローふえづくりに挑戦させていただきました。音が鳴ったときのうれしい気持ちを子どもたちと同じように体感することができました。

- 学習活動をスムーズに始めるために、活動時間や手順をはじめに決めておく。
- 教材研究や授業の準備をしっかりとる。準備不足で子どもを困らせてはいけない。
- 振り返りシートを活用し、子どもの気づきを高め、新たな思いや願いをもたせる。それらを全体で共有することで子ども同士をつなげていく。
- 題材がシンプルなほうが、子どもたちの話し合いも深まりやすい。



小学校部会②

竹田 圭 指導教諭のお話より

竹田先生には、教師の「書く・話す・聞く」コツ、子どもや保護者の信頼を得るための方法、子どもとのかかわり方の基本、よい授業、授業規律等についてお話しいただき、たくさんの資料をプレゼントとしていただきました。

- 丁寧な話し方で子どもたちに話しかける。
- 話を聞くときは手を止めて、目を見て聞く。
- 具体的にほめ、適切に評価や認める声かけをする。
- 意図的・計画的な指名を行う。
- 名前を呼んだら必ず「はい」と返事をさせる。分からないことや知りたいことがあったら、「なぜですか」「どうしてですか」と発言させる。「〇〇さんと同じです」だけでなく、自分の言葉で言い直しをさせる。
- 予定黒板を丁寧に書く。
- かかとのある履物をはく。
- 丸をつけるときは丁寧に付ける。

他にも、子どもを引き付けるためのアイデアや、黒板をきれいに消す裏技など、惜しみなく披露してくださいました。



## 中学校部会①

### 奥井 守 指導教諭のお話より

奥井先生の普段の授業さながらに、英語の歌をBGMに講義がスタートしました。歌詞をヒントにペアトークしながらウォーミングアップ。参加者は、英語でのやりとりに最初は戸惑いながらも次第に引き込まれていきました。

新学習指導要領の実施に向けて、英語をベースに、教科の枠を超えて、目指すべきところを教えてくださいました。

■**どんな授業をすべきか、どんな授業をしたいかは、どんな力を付けたいか、どんな力を付けるべきかによって決まってくる。今まで大切にしてきたことをもとに、新学習指導要領を踏まえた授業改善を図る。**

■**一番のキーはグローバルな人材育成である。世界を視野に、自分自身のことを伝え、相手のこと知らなければならない。授業の中で、自分ならどう思うのか、判断力を身に付けさせたい。**

■**グローバルであるとともにタフであることも必要である。生徒だけでなく、先生にもタフであってほしい。**

奥井先生はICT機器を活用した授業にも積極的に取り組んでみえます。



## 中学校部会②

### 前田 順司 指導教諭のお話より

前田先生には、授業計画をテーマにお話しいただきました。

授業を計画するときに意識することとして、授業規律や、気になる生徒、教科の好き嫌い、テストの問題や授業進度、発問や板書、主体的・対話的で深い学び、保護者等、20項目の中から各自で選び、グループで交流しました。

また、前田先生の理科の実践における様々な工夫について紹介していただきながら、各教科でどのような授業展開をするか、グループで考えを出し合いました。

■**授業を計画するのに意識しなくてよいことなど何もなく、すべてが大切である。そのような授業づくりはとても難しいけれど、とても楽しいものでもある。**

■**「主体的・対話的で深い学び」のために、「なぜ？」という質問をどこでするのがポイントになる。答えが分かっていることや結果が見えていることを考えさせるのは、主体的でも深い学びでもない。**

■**授業に関係のない雑談や一発芸のようなものではなく、本当に面白い授業で勝負したい。**



## ♪参加者の感想♪



- ★指導教諭として普段活躍されている先生方の授業への思いを、若手にも伝わるように教授していただき、たいへんよかった。講師の先生方は自分とは他教科ではあったが、学習活動の方法等、共通する点が多々あり、ぜひ取り組んでいきたいと思った。
- ★初めての低学年で、生活科で何をしたらいいのかいつも困っていた。具体的にどんな活動をどんな指導法でやったらいいのか教えていただき、すごくためになった。
- ★生徒にどんな力をつけたいからどんな授業を行っていけばいいのか、そのための授業・教材の改善点は何なのか、大切なことをこの講座で勉強させていただきました。教員は授業力があるのものであるので、授業力の向上を日々考えている中で、このような講座を受講でき、たいへんよかったですと思いました。一人一人の生徒の未来を考え、授業を工夫していかなければならないという思いになりました。
- ★授業づくりについての講義を通じて、教師としてあるべき姿というものも学ばせていただきました。
- ★教師は子どもの見本として、日々の発言や行動に、より一層気をつけていこうと思いました。これからは分からないことは先輩の先生方にお聞きし、不安なく授業ができるようにしていきます。
- ★教科書を頼りに授業を進めることが多く、子どもの実態に応じて行うことができなかつたと振り返ることができました。子どもが楽しめよう、わくわくできるような授業を考え、この仕事を責任感はもちろん楽しんでいきたいと思えます。

★**これからの教育を担う若手教員の育成のために、各職場でもぜひサポートをお願いします！**

